



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2108号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 西本 和夫 幹事 宇田川 茂



広重版画より 三島 朝霧

第2171回例会 ガバナー補佐公式訪問

2017.7.27晴

司 会 遠藤眞道君

ロータリーソング
「奉仕の理想」
指揮 赤池克斗君

会長挨拶

会長 西本和夫君

皆様、こんにちは。本日はせせらぎ三島RCとの合同例会になります。2クラブを代表して会長挨拶をさせていただきます。松村友吉ガバナーはじめ、藤島祥人・金丸好孝副幹事、土屋龍太郎ガバナー補佐、ガバナー補佐事務局の竹村淳一郎さま、ようこそおいで下さいました。一年間よろしく願いいたします。松村友吉ガバナーには三島西RCの45周年記念式典に参加していただきましたので、他クラブよりは多少は顔なじみな方でいらっしゃる。のちほど、ご挨拶、ガバナー方針等をよろしくお願い申し上げます。

三島西ロータリークラブでは原則第3週の例会で会長挨拶を副会長にお願いしています。次年度に向けての練習…といった事で15年前から継続しています。私も一年間、12回の会長挨拶を練習してきましたが今だに上手く話せません。会長挨拶も今日を含めて残り32回…まだ始まったばかりですね。(笑)

本年度の我がクラブテーマは「Memory of the rotary」ロータリーの思い出と、させていただきます。のちほど説明があるかと思いますが、分区再編が決定して色々な変化が有ると思いますが、兄弟クラブのせせらぎ三島RCとは仲良く強力しあっていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

9月からのEND PORIOへの支援活動では3クラブ合同事業として活動していく予定です。ロータリー活動での良い思い出になればと願っています。

これからも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 松村友吉ガバナー(焼津RC)
藤島祥人地区副幹事(焼津RC)
金丸好孝地区副幹事(焼津RC)
土屋龍太郎ガバナー補佐(伊豆中央RC)
竹村淳一郎ガバナー補佐事務局
(伊豆中央RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	28/38	73.68%	33/38	86.84%
今回	37/40	92.50%	会員総数	45名

欠席者 大石君、橋本君、古屋君



2017～2018年度
国際ロータリー会長
イアンH.S.ライズリー

ロータリー：変化をもたらす

ガバナー挨拶

RI第2620地区松村友吉ガバナー

1.ロータリーの経験

(1)私のロータリー歴

私は焼津ロータリークラブに所属する、松村友吉と申します。ロータリー歴は、1998年入会で今19年目に当たります。父がチャーターメンバーでしたが、体を壊しロータリーを退会すると言うことで、父と交代で44才の時入会しました。入会式のことは今でも覚えていまして、緊張しながら入会のご挨拶をして席に戻ると、大先輩が寄ってきて「おまえの親父さんの面倒を我々は見たのだから今度はおまえが我々の面倒を見る番だ」と言われ、まずいところに入会してしまった、と大いに後悔しました。実際は優しい先輩たちで、心配することは無かったのですが、あまり熱意も無く、出席率も良くない不良会員として数年過ぎました。ただ、委員長の役が回ってきて、プログラム委員長、職業奉仕委員長、会員増強委員長等を歴任し、だんだんクラブにも慣れてきて、数年前に会長を引き受けました。ただ、地区に出向した経験もなく、ガバナー補佐にもなったことも無い私が、先輩からガバナーの話を聞いたときは、本当にいいのかな、なれるのかな、と考えました。ただ、JCの時からのお癖で、請われたら直ぐに、はい喜んで、とお引き受けするのがいいことだと思い込んでいて、勢いで受けてしまいました。2年前にガバナーノミネーテジグネットになり、不安を抱えながら、2年間地区やRIのことを学んできました。それは密度の濃い準備期間をいただいたと思っています。

(2)ロータリーの組織で気づいたこと

この二年間、ノミネーとエレクトとしていろいろな会議に出席し、ロータリーのことを学んでいるうちに、2つのことに気づきました。すでにそんなことは百も承知だよ、という方もいらっしゃると思いますが、私には大変新鮮な発見でしたので、述べてみたいと思います。

1つは、ロータリーには、日本の組織がなく、我々地区とクラブは直接RIと繋がっているということです。私はJCにも所属していて、地区会長とかさせていただいたのですが、JCでは、1番中心にあって力のある組織が日本JCで、そこには会頭ほか多くの役員や事務局員が居てしかも霞ヶ関の近くに立派な会館も持っていて、全国のJC組織を統轄運営しています。地区も東海地区や四国地区というように地域の名称が付き、日本JCの統括を受けながらも独立した地域独特の運営をしています。ロータリーには日本ロータリーという組織はなく、RI日本事務局がオフィスを構えて活動していますが、あくまでRIの組織で、独立した日本の組織ではありません。地区はすべてナンバリングで呼ばれ、静岡山梨地区は2620地区と、ある意味、味も素っ気も無い呼称になっています。私たち地区はRIと直接つながり、ガバナーはRIの役員になっています。各クラブは、RIに対して、直接もの申せまし、投票資格も持っています。この組織構造の違いは大変大きく、我々ロータリアンは、よくよくこの組織のあり方を認識している必要があります。2つめは、ロータリーの役職が単年度制であるなかで、毎年うまく引き継ぎあるいは更なる発展や飛躍をするための仕掛けが、大変絶妙に組み込まれていることです。例えば、ガバナーの引き継ぎの仕掛けで言えば、2年前からノミネー・1年前からエレクトとして多くの会議に出席する仕掛けがあり、また直前前任者のガバナー・エレクトと常に顔を合わせ情報交換する機会が大変多く設定されています。GETSや国際協議会はもちろんのこと、研究協議会やゾーン毎の多くのセミナーで現在もっとも必要とされるロータリーの課題を学び、自分のガバナー就任にむけての事前準備が否応なくできるように仕組まれています。また、クラブにおいても、会長エレクトは会長の補佐役として常にそばに控え、1年間会長としての役割や振る舞い方を身近に見て学び、会長就任時にはある程度の知識と覚悟を持ち合わせるように仕組まれています。このあたりの仕掛けの絶妙さは、やはり発祥の地アメリカの戦略的思考方法がベースにあって100年かけて設計されたものであるように思います。もし我々日本の中小企業が1年発起して世界に打って出てグローバル企業を1から立ち上げようとするなら、このロータリーの組織運営に組み込まれた絶妙な仕組みを真似るといいと思います。

2.イアン・ライズリー会長のテーマ

(1)「変化をもたらす」の意味と背景

本年度のRI会長イアン・ライズリー氏については、いろいろな機関誌でご覧になっているかと思いますが、再度申し上げますと、オーストラリアのメルボルンの郊外にあるサンドリンガムRCのメンバーで、公認会計士として成功している方です。奥さんともに体が大きくまた大変陽気な方です。この方のテーマが、「ロータリー:変化をもたらす」というもので、これについて改めてご説明いたします。変化をもたらす主体はロータリーです。そして、変化をもたらす対象は、2つあります。1つは外に向けて。112年の歴史を持つロータリーはこの間様々な活動を世界中で行ってきて、世界をよりよくするために変化をもたらしてきました。これからも同じように外に向けて我々は活動を展開していくわけですが、特にサンディエゴで言われたのが、行動の大切さです。Rotary In Action という標語をたくさんいただきました。とにかく行動して結果を出していこう、ということです。中でも、END POLIO については、ロータリーとしても大変な成功事例だとしていて、まもなく撲滅が実現し、次の大きな事業に取りかかるタイミングであるが、次の事業もEND POLIOのように、世界的な規模で、他の世界的な機関と協力し合いながらロータリーの良さや強みを発揮する事業を見つけていきたいと言っていました。とにかく、外に向けてよりよい変化をもたらしていましよう、ということです。次に、内に向けての変化です。近年の規定審議会での議論を踏まえて、ロータリークラブの運営方法に柔軟性を持たせ、運営をやりやすくしていこうという動きがあります。これについては、イアン・ライズリー会長から、世界の環境変化への対応が必要である、というお話がありました。世界の環境変化は3つありまして、1.IT化 2.グローバル化 3.少子高齢化 です。1.IT化は、我々は今や否応なくこの流れに飲み込まれている訳ですが、まずはRIの用意したロータリークラブ・セントラルという情報ツールをクラブで存分に使いこなすこと、更に個人個人でマイロータリーのパスワードを登録して、ロータリー情報を自らやりとりすること、が求められています。この流れは後戻りしませんから、なんとか食らいついて変化に対応していく必要があります。2つめのグローバル化は経済の世界で常に言われることですが、ロータリーが200カ国に広がり、123万人の国や言語や生活習慣の違う人々が今やロータリアンとして世界で活動する時代ですから、組織の運営方法についてもこの面からも柔軟性が求められています。昨年の規定審議会で世界の国々の特に発展途上国から、強い要請があったようです。つまり、毎週毎週決まった時間に全員が顔を揃え会合を持つことが、発展途上の国のロータリークラブでは難しいので、もっと柔軟な規定にして、運営方法に幅を持たしてほしい、という要求が通りました。因みに来年のRI会長はアフリカのウガンダの人ですが、先進国ロータリーの意向が100%まかり通る時代では無くなってきた、ということです。

3つめは、先進国における少子高齢化です。これまで長い間ロータリー活動を牽引してきた先進国では、程度の差はありますが、少子高齢化が進んでいます。なかなか会員の数が増えない、増えないどころか減っていく傾向にあります。RIは必死で会員維持増強を訴える背景に、この少子高齢化があります。会員の減少は、直接組織の活力低下になっていきます。

RIはここ15年間会員の増強のために試験的にいろいろな試みをしてきました。その結果、組織運営に柔軟性を持たせ、会費の減額や例会の頻度を減らす等が一定の効果を示した、ということで、RI理事会としても、クラブ運営に柔軟性をもたせることを後押しした、ということです。イアン・ライズリー会長のいう内に向けた変化は、これら時代の変化にうまく対応するために、組織づくりや運営方法に変化をもたらすことも必要だ、という示唆であると思っています。

(2)私の考え方

私自身、サンディエゴでイアン・ライズリー会長のテーマを初めて耳にした時は、実はあまり大きな違和感を感じませんでした。なぜなら、私自身中小企業の経営者として1番心がけていることが、時代の変化に対応することであり、そのために常に自分の会社にすこしづつ変化をもたらす、商品やサービスそして組織そのものが陳腐化しないようにしているからです。経営者の役割はそこにある、日々のル

ーティーンをこなすことは、経営者の第一の務めでは無いと思っています。よくゴルフを経営者仲間ですと、プレイ中常に携帯からいろいろな指示を出している経営者がいますが、その人が後輩なら、ちょっとそのやり方は違うんじゃないの、と言ってしまいます。日々のルーティーンをこなすことも大事ですが、大きい流れを捉えて会社運営に変化をもたらすのが経営者の役割であると思います。

そういう意味では、今年のイアン・ライズリー会長のテーマは、全く違和感はありませんでした。ただ、これまでロータリーを一生懸命やられてきた先輩のロータリアンから、こんなに規律を緩めていいのか？あるいは、ロータリーの本来の精神も揺らいできているのではないのか？との懸念が多々示されています。これから会員の増強に力を入れ、若者・女性あるいはサラリーマンの方々を数多く勧誘していけば、会員の質の低下とか、心配される向きもありよく理解できるのですが、本当に数を絞り、会員数が減少してもロータリーのこれまでの質のみに拘っていくのがいいのか、まだここ当分何年かは議論が続くのではないかと思います。私の考え方を聞かれれば、企業経営と同じで、環境に合わせて組織を変化させていき、それがむしろ組織強化に繋がる、というのが私の考えです。やはり、一定の会員数は必要です。私のクラブでは、51年目私が会長の時、初めて女性会員を入れ現在3名、若者も多く入って平均年齢は4才下がりましたし、サラリーマン会員も専門知識を生かし、大いに活躍してくれています。年配の会員もいま一生懸命地区運営を支えてくれています。あまり恐れず広く人材を求め、入会のタイミングでうまく指導をしていくことが大切なのではないかと思います。また、申し上げたいのが、組織運営の方法に変化をもたらしても、ロータリーの精神の根幹は、変えてはならない、ということです。イアン・ライズリー会長もこのことは明確に言われていました。ロータリーの目的、5つの中核的価値、4つのテストは全く変わっていません。変えていくものと、変えてはいけないものをしっかり見極め、未来に向けてロータリーをしっかりと牽引していったほうがいいと思います。

3. 未来のロータリーを考える

2018年はポール・ハリス生誕150年、そして米山梅吉生誕150年、さらに2020年は日本のロータリー100周年ということで、100周年記念委員会も出来、これから記念誌が発行され、将来に向けたビジョンが発表されるのだと思います。また、先ほど申し上げた運営方法の変化も打ち出された時期ですから、いま未来に向けてロータリーについていろいろな議論がなされるべき時期ではないかと考えています。これは入会したばかりの人を含めて、老いも若きも、ベテランも素人も含めて議論していいのではないかと考えています。確かに、これこそロータリーだという神髄はあるでしょうし、そこに信念を持っている方々もいらっしゃるでしょうし、この機会に互いの切磋琢磨も含めて考えを交換し合うことは、大変有意義だと思います。ロータリーの学びの手法に、アイデア交換、いうのがあります。サンディエゴの国際協議会の半分の時間は、このアイデア交換に費やされました。そんな気軽な明るい気持ちで、互いのロータリアンが考えをぶつけ合うのもいいかもしれません。果たして100年後のロータリーはどうなっているのでしょうか？サンディエゴの国際協議会の本会議の最後に、シカゴのEクラブの会員で20代のシリコンバレー経営者が、蕩々と未来のロータリーについて、危機感を交えて語りました。この若者に未来のロータリーを長々と語らせたもの、RIの意思だと思います。われわれも1ロータリアンとして、未来のあるべきロータリーの姿について語り合ってもいいのではないかと思います。これからの若者が入会したいと思うロータリー、この会に入って一緒に活動してみたいと思うロータリーにしていかななくてはなりません。そのためには、まずは我々自身が変わっていくべきなのか、あるいは、日本のロータリアンとして、もっともってRIに対して言うべきことを言うべきなのか、そして世界全体のロータリアンとしてどんな行動をとっていくべきなのか、話はどんどん大きくなりますが、100年単位の視野で考えることから、萎縮することなく本音でいろいろ議論出来たら、と思います。是非、みなさんもこの機会を捉え、未来のロータリーについて考えていったほうがいいと思います。

クラブ協議会

SAA

遠藤眞道君

中世ヨーロッパの宮廷で外国の来賓を招いたレセプションが開かれる場合、その会場を取り仕切る役職がS,A,Aである。S,A,Aはロータリーメンバーの10%以上の例会場の管理者が望ましいとうたっています。今年度は柴崎副委員長、鈴木先生、花房君、赤池君、私の5名で1年間活動します。

〈基本方針〉

三島西ロータリークラブのモットー、親睦を第1とした例会の運営に努める。

〈活動計画〉

1. 定例5分前にテーブルに案内する。
2. 例会中の私語の禁止につとめる。
3. テーブルは4ヵ月毎に交換し和やかなテーブルにする。
4. 卓話者の所要時間を事前に把握し、効率的な運営を心がける。

会員増強維持委員会

委員長 前田房江君

〈基本方針〉

会員増強の責務は委員会だけの責務では無く、新会員の勧誘は会員全員の責務であることを認識していただき、積極的に会員候補者を推薦していただき、1人でも多くの増強に努める。また、クラブ運営が楽しいものになるようクラブ役員・理事に協力して、退会の防止に努め会員維持に努める。

〈活動計画〉

1. 当期年度末には純増1名以上となるよう努める。
2. 推薦された会員候補者の会員資格の審査と職業分類を決定する。
1. 充填及び未充填職業分類表を再整備する。

クラブ広報委員会

委員長 梶山 豊君

〈基本方針〉

1. 広報委員会はロータリー活動や情報を地域社会の人々に知っていただくための、広報活動を行う。
2. 会報(週報)はこれまでも続けてこられたものですので、継続して発行して親睦活動やクラブ内の情報の共有化を図る。

〈活動計画〉

- 1 地域メディアへの情報提供
- 2 会報の作成は委員の輪番制とする
原稿は、事務局にメール送信をお願いする
- 3 会報(週報)の発行 投稿写真等の掲載
- 4 ロータリー徽章の襟ピンの日常着用の推進をする

クラブ管理運営委員会

委員長 矢野敏夫君

〈基本方針〉

1. 年間プログラムの作成:クラブ方針に基づき、卓話などのプログラムを作成する。
2. 出席率の向上を目指す:メーキャップ情報を発信する。
3. IT(情報技術)の推進を図るための調査研究をする。

〈活動計画〉

1. クラブ方針に基づき、卓話などのプログラムを作成する。
2. なるべく多くの会員に卓話の機会をつくるため、近年の卓話実績を参考として卓話者を選ぶ。
3. 卓話者には事前に確認の連絡をする。

4.卓話日程の変更は、1か月前までに委員会に報告することをお願いする。

5.年間出席率100%の会員に記念品の贈呈。

6.その他必要に応じ、クラブの効果的な運営を行う。

親睦活動委員会

委員長 木村安紀夫君

西ロータリーの伝統である親睦を通じてクラブの結束を図る、親睦活動委員会の委員長を仰せつかり身の引き締まる思いです。会員、ご家族みんなで楽しめる企画を委員会一同で考え出来るだけ多くの方々に参加していただけるよう取り組んでまいります。

活動計画

・親睦活動委員会のメンバーは例会に先立ち入口でお出迎へのタスキを掛けゲスト、ビジター、会員の皆様をお迎えする

・例会に先立ち配布物を会員に配る

・奉仕活動の一環としてスマイルを実施する

催事計画

(1)9月末予定の親睦家族例会を変更して日帰りバスツアーを企画する(新しい試みとして)

(2) クリスマス家族会を実施する

(3) 年度末の6月にサヨナラ慰労激励会を実施する

(4) 年3回の夜間親睦例会を実施する

(5) S.A.A.の計画に沿って年3回のテーブル会を実施する

(6)11月に計画の、ゴルフ同好会主催の北陸遠征に協力し会を盛り上げていきたいと思ひます

ロータリー情報委員会

委員長 遠藤正幸君

この委員会は、パスト会長が順番で担当する委員会です。どういふわけか2回目の委員長が回ってきました。よろしくお願ひします。

RIや地区の情報を皆様にお伝えしてゆきたいと思ひます。新会員への勉強会も計画して三島西RCの良さを伝えなるべく早くクラブになじんでいただけるようにしたいと考えています。

職業奉仕委員会

委員長 鈴木正二君

<基本方針>

2016年の規定審議会で下記のアンダーラインの部分が追加された。
第6条 五大奉仕部門

2.奉仕の第2部門である職業奉仕は、事業及び専門職務の道德的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を實踐していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

<活動計画>

1.上記基本方針について委員会の中で情報を集めて勉強・討論する。

2.職業奉仕月間に委員会の意見を添えて会員の意見を集約する。

3.従来からの職場見学も計画する。

社会奉仕委員会

委員長 千葉慎二君

地域社会への奉仕活動を通して、会員個人が奉仕の理想を實踐する場を提供すると共に、地域社会における三島西ロータリー・クラブの認知度向上に資するための活動を、平出副委員長をはじめ、鈴木(郁)さん、田熊さん、三田さんと私の5名で実施して行きます。具体的には下記の事業を予定しています。真っ先に赤十字社の献血活動の支援事業がありますので、奮って皆様のご協力をお願い致します。

1.日本赤十字社の献血活動の支援・お手伝い 8月19日

2.見晴フェスティバルへの参加・協力 10月15日

3.世界ポリオデー・プロジェクトの実施(3クラブ合同)

9月～10月

4.障害者支援事業 平成30年1月～3月

国際奉仕委員会

委員長 栗原達治君

(基本方針)

三島西RCの看板事業である苗栗RCとの交換中学生事業を中心とし、両RC、並びに苗栗東南、多治見西、酒田東との交流を深める。三島市国際交流協会に協力し、国際理解、親善、平和を推進する。

(活動計画)

1.苗栗RCとの国際親善活動

苗栗RC創立47周年記念式典へ、姉妹クラブとして出席する。

2.苗栗交換中学生の中学生の受け入れを実施する。

3.三島市国際交流フェアへの協力

4.苗栗東南RC、多治見西RC、酒田東RCとの親善交流を促進する。

ロータリー財団米山委員会

委員長 柴崎恵子君

ロータリー財団

<基本方針>

国際ロータリーのロータリー財団は世界理解と親善、平和を達成できるよう、RIのプログラムに参加、財政的貢献を通じて支援することである。このことを会員各位にご理解していただきまして、ロータリー財団へのご支援ご協力をお願いする。

<活動計画>

・2620地区の目標達成に協力する。

・地区目標 年次寄付US\$150／人、年

・ベネファクター(恒久基金寄付)US\$1000. 1名以上

・地区補助金の活用 ・ロータリーカード加入促進
米山

<基本方針>

米山梅吉翁の「奉仕の精神」を継承し、併せて米山記念奨学会事業に対して会員各位に理解を深めていただくよう努める。

<活動計画>

・米山記念奨学事業へのご理解をいただき寄付増進を図る。

・2620地区の目標 ￥16,000／人、年

・米山梅吉記念館行事への参画と賛助金を会員各位にお願いする。

・米山奨学生の学友会活動、交流をフォローしサポートする。

(週報担当:楢山 豊)